平成 30 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 ： グループホーム あったかいご神子田マルシェ（しずく）

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0390100188		
法人名	株式会社 三協医科器械		
事業所名	グループホーム あったかいご神子田マルシェ（しずく）		
所在地	岩手県盛岡市神子田町6-12		
自己評価作成日	平成30年11月19日	評価結果市町村受理日	平成31年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0390100188-00&PrefCd=03&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020－0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成30年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当ホームでは、フロアを広く取り、陽光あふれる明るいリビングにゆったりとみんなで楽しく集う場、自由にありのままに暮らして頂く快適な空間を提供しております。裏庭に畑やミニ公園を造り、その人がその人らしい暮らしができるように支援しております。また、協力医と訪問看護との連携を図り、普段の健康管理や異常時、緊急時の対応が敏速に出来る体制をとっております。医療機関との協力体制をとり看取りも行っています。地域での関わりでは、夏祭り等の協力や参加、町内の避難訓練や施設の避難訓練を互いに参加し合うなど、地域の繋がりも持ちながら会社としての理念「共に和み 共に生きる」を軸に施設理念「心・和・楽・笑」をモットーに地域に根ざした施設を目指しております。安全で快適な暮らしができるよう、職員一人一人の質の向上を図りながら取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

毎年4月に家族アンケートを実施し、介護の内容や医療・安全、職員対応など事業所運営に対する家族の意向を確認している。記載されていた内容については職員会議で一つ一つ改善策を話し合い、その結果を文書にまとめて家族に送付し報告している。また、職員の意見もできるだけ多く引き出すことができるように工夫し、思いついたときすぐに書いて出すことのできる投書箱等を設置し、多くの意見を集めて職員会議で検討されている。このように、家族や職員の意見を事業所のサービスの質向上のための手掛かりとして大切にして真摯に向き合っていることから、利用者側と職員の満足度も高まり、今後更なる質の向上につながるものと感じられる。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項 目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

平成 30 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム あったかいご神子田マルシェ（しずく）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に和み　共に生きる」を会社全体の理念を掲げている。施設では「心　和　楽　笑」という理念を職員間で共有し、ご本人、ご家族との調和と融合で安心して過ごして頂けるよう努めています。	会社の理念と事業所の理念を玄関に掲示し、日常的に職員の目につくようにしている。職員会議でも折に触れて唱和している。全事業所で募集する介護の標語に理念の内容に通じるものを作って出すことも多い。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事などにご利用者の体調や状態をみながら、参加している。	事業所は町内会に加入し、防災班としての役割を担い避難訓練にも参加している。地域の方に気軽に立ち寄ってもらうために、事業所の夏祭りに衣類の移動販売を実施している。今年は小学校のマラソン大会の応援を行ったが、今後は更に子供との交流を深めたいと考えている。	地域の方に事業所への関心を持ってもらうためにこれまでも工夫して取り組んでいるが、更なる働きかけや子供たちとの交流などにより、日常的に一層の交流が図れるようになることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一回の地域運営推進会議において、地域の方々の認知症への理解度を把握、共有し、私どもの経験や知識が役立てられるように相談・援助を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回の地域運営推進会議において、地域の方々の認知症への理解度を把握、共有し、私どもの経験や知識が役立てられるように相談・援助を行っている。	運営推進会議では事業所の取り組み状況を報告し、参加者が意見を発言しやすくするために、終了前に感想を聞くようにしている。夏祭りのポスターはホームの立地が分かりづらいとの意見出され、次回から地図を掲載する予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の会議録や施設の広報紙等を届け、報告しながら情報も頂いている。認定調査の関りや様々な相談に乗って頂いている。	運営推進会議の議事録や事業所の広報紙を、2ヵ月毎に市の介護保険課に出向いて直接渡し、関係作りをしている。管理者変更届けに関することなど、分からないことがあれば随時相談し、協力関係が作られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議等でその都度話し合いをしている。また、身体拘束廃止委員会を設け、3ヶ月に一回会議を開いている。スピーチロックに関する内部研修を行ない、声かけの仕方を学び、よりよいケアに取り組んだ。	身体拘束廃止委員会は3ヵ月毎に開催されている。職員会議ではベッド柵の使い方など具体的な行為について話し合われている。年2回の研修会ではスピーチロックをテーマとし、職員が実際に使用している言葉に置き替えるなど、より実際に近づけて考えられるよう工夫して取り組んでいる。	

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束、スピーチロックを虐待と結びつけ、職員会議や身体拘束廃止委員会で話し合い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や情報交換をしながら得た情報を個別相談等で個別援助している。介護支援専門員等の資格に挑戦し、学ぶ機会を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を行い、理解の上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートを配布して意見・要望を聞き改善するようにしている。また、その都度何かあれば意見を聞きいれ運営に反映させるようにしている。	介護、医療、広報などに関する家族アンケートを4月に実施し、集計結果と要望等に対する回答を家族にも文書で報告している。「広報紙の写真を大きくしてほしいい」「体調を崩したときは早く連絡してほしい」などの要望が出され、改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回の職員会議を設け、意見や提案を聞きいれている。	職員が意見を出しやすくするために、1階には意見箱を設置、2階にはファイルを使用している。「血圧再検をする値は」「残業をどの程度するか」など、出された意見は職員会議で話し合われ検討されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の個別面談を行い話し合いの場を設けている。また、急を要する内容については随時、管理者を中心に聞き取りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会を設け、キャリアアップを図っている。		

［評価機関　：　特定非営利活動法人　いわての保健福祉支援研究会］

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等に参加する事で同業者と交流する機会を持ち、互いのサービスの提供の仕方等を学んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の発する言葉に耳を傾け何を望んでいるのか、行動と組み合わせで気持ちを察するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	気楽な話題で会話を始め、回数を重ねながら内容を深めて気持ちを伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームなので他のサービスには限りがあるが、初期の支援はご本人に必要な最低限の部分を短期間で見定めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思や行動を尊重し、共同生活者として必要な部分を援助している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の身体的な部分は職員で援助できている。精神面においてはご家族の協力と理解を得て、ケアにあたっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけでなく、教会関係者が来所することもあった。馴染みの場所は、ご本人の記憶から少しずつ薄れてきている部分もあるが、以前に聞いていた情報を元に支援できるように努めている。	馴染みの関係把握も含め1ヵ月程度の時間をかけて入居前に情報収集を行なっている。家族に働きかけてお墓参りに連れて行ってもらっている方や、入居後も教会のミサに出掛けていたが外出が困難になってからは教会関係者が事業所に訪問している方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々のプライバシーを尊重しながら、一同に会して交流する場を設け、円満に生活できるように職員が間に入り、座席も工夫している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後相談のある場合は、相談に乗っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思の疎通が難しいご利用者もいるが、その方を良く観察し、寄り添って何が望みか把握できるように努めている。	思いや意向は日々の言葉を聞いたりその時々の表情を見て汲み取るようにしている。自分で伝えることが困難な方の場合には、家族から聞いた情報を職員間で話し合って検討し、情報共有にも努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの経歴をまとめた情報をご利用者ごとにファイリングし、職員が閲覧し共有している。ご家族やご本人に話を聞く等し、情報を収集し職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方なりの生活のリズム、気分、体調などを見極め、フォローできるように努めている。ご本人のできることに注目し、仕事を頼んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人を含めた話し合いは難しいものの、よりよい暮らしのためにチームで意見を出し合い介護計画を作成している。	3ヵ月毎に利用者の担当職員がモニタリングと全職員の意見集約を行なって会議で話し合い、その結果を元に計画作成担当者がプランを作成している。会議の前には家族の意向も確認している。急変時には申し送りノートで対応方法の統一を図るが、変化が1ヵ月以上続くと見込まれる場合には、プランを変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の他、口頭でも共有したり、実践する旨を連絡ノートに記す等見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内で実現できそうなことは、ニーズに合わせ試みている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りに参加されたり、見学し楽しまれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望に合わせ、往診を受けられたり、かかりつけ医を選ばれたりしている。	入居前のかかりつけ医の継続、協力医への通院、往診など、希望に応じて対応している。通院介助は家族が行っているが、受診連絡票に利用者の状況を記載して医師に伝え、診察結果は医師に直接返信欄に記載してもらい、医師と直接連携できるように工夫している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回、訪問看護を受けられアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した際には、ご家族や病院から情報を頂いている。面会にて病院へ行き、様子を確認したり、情報を聞いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りのご利用者に対してのマニュアルを作成しており、それにあった介護を行なっている。	終末期の介護についての意向は入居時に確認し、その後も必要に応じて再確認している。重度化や看取りに対応するための具体的方法を定めたマニュアルを作成し、年1回看取りの研修会を開催し、訪問診療の医師や訪問看護と連携を図り、看取りに積極的に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や、初期対応の研修を受けている。AEDの設置に伴い、消防署から使用方法の指導をうけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練をおこなっている。夜間はあくまでも想定で行っており、夜間に実際に訓練は行えていない。	消防署の協力を得て、年2回火災想定の消防訓練を実施している。運営推進会議の後に実施することで会議の参加者に訓練にも参加してもらうよう工夫している。水害時の避難訓練を行なうため、現在水害避難計画書を作成している。	夜間の火災などで2ユニットの入居者を安全に避難誘導できるようにするためには人手が必要であり、近隣住民の更なる協力を得られるように工夫し、積極的に働きかけをしていくことを期待する。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉遣いで対応している。居室に入る際も、ノックや声かけを行いプライバシーを損ねないようにしている。	排泄誘導の声掛けが他の人に聞こえないよう配慮している。居室に入る際はノックし声掛けするよう研修で徹底している。トイレに置いたおむつに記載していた名前をマークに変更したり、排泄チェック表に表紙を付けるなど、プライバシー保護のための改善が図られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に声かけ行い、拒否等があった場合は時間をずらすなど対応をおこなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	休息など、できる範囲での希望に沿って支援を支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人に声かけ行い、着たい服など好みを聞きいれ、好きな服を着ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の好みの食事を取り入れたメニューを出すように努めている。おやつの際はご利用者とおやつ作りを行っている。	利用者の好みを知り献立に生かすために、会話の中で聞いたり残食を見て把握するようにしている。中庭で育てた野菜を一緒に収穫して、食材に取り入れている。利用者はおしぼり作りやテーブル拭き、下膳など、できる範囲で職員と一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量に合わせて分量を調整している。水分量が少ない方にはゼリー等を提供し、水分摂取に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で行える方はご自分で行っていただき、困難な方は介助を行ない、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔や様子を見て、声かけやトイレ誘導、パット確認を行っている。ほとんどの方がトイレでの排泄を行っている。	排泄チェック表に排泄状況を記載することで、排泄がみられなかったときには次の誘導時間を早めるなどして失禁を減らすようにしている。また、利用者の行動の観察に努めて、トイレに行きたい様子を察知して誘導するようにもしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取を促し、食事では食物繊維の多い物を把握し提供を心掛けている。体操や散歩など身体を動かす機会をもうけている。それでも、便秘の方は下剤にて調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決めているが、体調や気分により日を変えて入浴している。時間も希望に合わせ入浴して頂いている。	入浴は月～土曜日の10時～11時と13時30分～15時30分の時間帯で、週3回入ることができるようにしている。入浴を好まない方には「温泉に行きましょう」と声掛けするなど、個人に合わせた工夫をしている。1階では入浴剤を使用して入浴を楽しめるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態によって、早目の就寝をしたり、眠れない時は自由に過ごしていただいたり、職員が会話の相手を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧化を行い、いつでも職員が見れるようにし把握に努めている。医師からも説明を受け、会議等で職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を理解し共有して、役割として1日の活動として行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レクなどで天候と体調を考慮し、外出で出きる様努めている。また、ご家族の協力を得て外出をしている方もいる。	天気の良い日は事業所周辺の散歩に出かけたり、中庭に出て過ごすこともある。また、お花見や紅葉狩りのドライブを行ったり、肴町の七夕祭りの見学に行くなど、季節の行事を企画して外出機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持ちたいという希望が特になく、希望があった際はご家族に相談し、管理していただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人自ら電話を希望されることはないが、ご家族からの電話を受けた際は、代わり居室等でお話していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクや日常の写真を飾る等して自然と会話できるように工夫している。装飾はご利用者と作成を一緒に行い、季節ごとの雰囲気作りを行っている。	玄関には花が生けられ、来る人を心地よく迎える雰囲気が感じられる。食堂テーブルの横のホールにはソファーが置かれて、食後などにゆったりと寛ぐことができるよう配置されている。2階の小あがりは洗濯物たたみをする場としても活用されている。壁には利用者と職員で作成した季節ごとの飾りや行事の写真が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うご利用者同士が一緒に座れるようテーブルや椅子の場所を考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力を得て、家族写真を飾ったり、愛着のあるものを持参して頂き、居室にレイアウトしている。	自宅に居るような感覚の居室にするため、使い慣れた物を持参するよう入居時に家族へ依頼し、テーブルやいす、テレビ、小物などが思い思いに設えてある。また、家族から送られてきた手紙や写真、花なども壁や棚に丁寧に飾られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人ができる事は、多少時間がかかっても、見守りし安全に行っていただいている。		